

地域研究委員会地域学分科会（第24期・第2回）議事録

1. 日時 2018年6月24日（日） 13:00～15:20

2. 会場 明治大学駿河台キャンパス 研究棟第2会議室

3. 参加者（敬称略、以下同）

松原 宏、宮町良広、伊藤 悟、岩瀬峰代、碓井照子、岡橋秀典、小田宏信、小長谷有紀、小林 知、菅 豊、曾我 亨、田原裕子、中澤高志、増田 聡、矢野桂司、山川充夫、山下博樹、加藤幸治

4. 議事概要

（1）講演

内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局次長・信濃正範氏、同参事官・山下 洋氏

「地方創生の推進について（大学関係の中心に）」

配付資料に基づき両氏が分担して講演を行った。まず、まち・ひと・しごと創生に関する政府の取り組み状況について、基本目標のうち、「仕事」、「子育て」、「まち」はうまくいっているが、「地方への新しい『ひと』の流れをつくる」がうまくいっていない。すなわち仕事を地方にしっかりつくり、ひとが東京に集中しないようにする。

そのためには、地方大学の振興が必要である。知事会および「地方大学の振興及び若者雇用等に関する有識者会議」の提言を踏まえて、地方創生に資する大学改革を総合戦略に組み込んだ。具体的には、地方大学・産業創生法が6月1日に施行されており、地方公共団体への100億円規模の交付金も決まっている。ただし地方大学の振興だけで東京一極集中が止まるとは思えないため、東京23区の大学定員抑制を法律化した。

地方大学・地域産業創生交付金は実質70億円の予算がある。「キラリと光る地方大学づくり」のイメージは、総花主義から、特色のある部分を強くするようなイメージである。その他の内閣官房関係事業として、地方と東京圏の大学生対流促進事業や地方創生インターンシップ事業などがある。

講演後に、23区定員抑制の効果等について質疑応答がなされた。

（2）報告 田原裕子連携会員（國學院大學経済学部）

「國學院大學における地域学の現状と課題－渋谷学を中心に－」

渋谷学は、2002年に創立120周年事業として、学部横断的、学際的に渋谷を研究し、その成果を学外に発信することを目的として立ち上げられた。渋谷学は「渋谷学研究会」によって推進されている。おもな成果としては、毎年シンポジウム・研究会の開催や渋谷学叢書の刊行がある。地下街や商店街での聞き語りを集めた「渋谷聞きがたりシリーズ」は学外での評価が高い。今後は、研究＋教育＋地域貢献・連携の受け皿として再構築できるかが課題である。

報告後に、成果の展示に関して質疑応答がなされた。

（3）その他

今後のスケジュールなどについて審議した。